
(参考資料) インパクトファイナンスについて

2020年7月

環境省 環境経済課

インパクトファイナンスの基本的な考え方の取りまとめ（概要）

- ポジティブなインパクトを生む金融の確立に向け、2020年3月、ESG金融ハイレベル・パネルの下にタスクフォースを設置。
- 我が国のインパクトファイナンスの実践を促進するための「インパクトファイナンスの基本的考え方」を2020年7月に取りまとめ。

趣旨・目的

- ◆ インパクトファイナンスを、ESG金融の発展形として環境・社会・経済へのインパクトを追求するものと位置付け、大規模な民間資金を巻き込み、インパクトファイナンスを主流化していくことに狙い
- ◆ 第一歩として、まずは、大手機関投資家・金融機関等における実践の促進を目的
- ◆ 次の3つの基本的視点に基づき検討
 - 国際的な考え方との整合性
 - 任意の取組
 - 我が国での普及プロセス

定義

ポジティブなインパクトを生み出す意図、重大なネガティブインパクトを管理・緩和

インパクトの評価・モニタリング

インパクトの評価・モニタリング結果の情報開示

中長期的視点から金融機関・投資家にとって適切なリスク・リターンを確保しようとするもの

インパクトファイナンスの基本的な流れのイメージ



ポジティブインパクトファイナンスタスクフォースについて

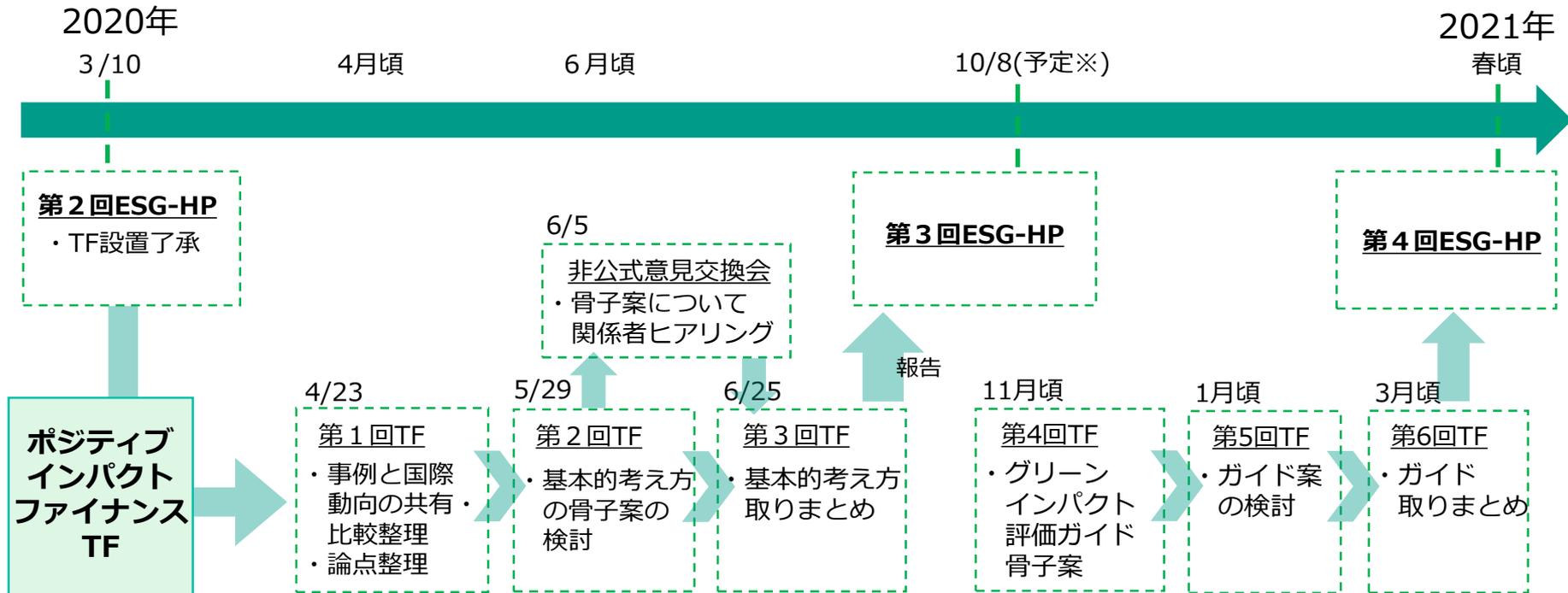
- 2020年3月10日、ESG金融ハイレベル・パネル（第2回）において、同パネル下に「**ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース**」を設置することが承認された。
- 本TFでは、ポジティブインパクトファイナンスに関する基本的考え方を取りまとめるとともに、グリーンを起点とするインパクト評価のガイドの策定を目指し、検討を行う。

ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース 概要

座長： 水口 剛 高崎経済大学副学長 同大学経済学部 教授

検討事項

- ポジティブインパクトを生むことを意図する金融の普及に向けた基本的考え方について
- グリーンを起点とするインパクト評価ガイドなどインパクト評価の在り方について 等



※第3回ESG-HPの開催は10月8日予定であるが、コロナの影響もあり開催は未決定

投融資においてインパクトを考慮する国際動向

インパクトを考慮する投融資の国際動向

- SDGs・パリ協定の達成に向け、金融においてESG投融資から社会的インパクトを志向する「インパクト投融資」への動きが世界的に進行中。
- 「インパクト投融資」は、取組主体、地域、対象が様々であり、様々なフレームワークやイニシアティブがグローバルで登場。

- インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)
- グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)
- 国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)
 - ▶ ポジティブ・インパクト・イニシアティブ
 - ▶ バンキング・プログラム
- 国際金融公社 (IFC)
- ワールド・ベンチマーキング・アライアンス (WBA)
- インパクト・ウェイトド・アカウンツ・イニシアティブ (IWAI)

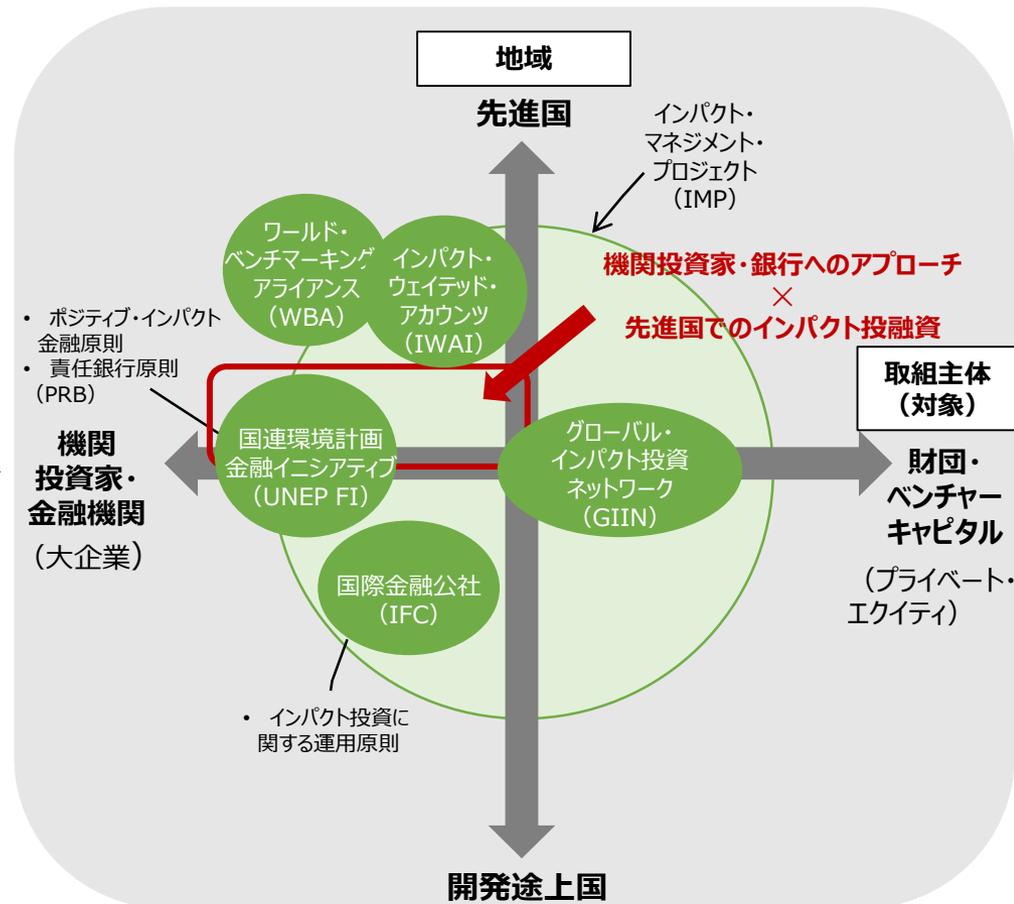


図 インパクト投融資イニシアティブの取組主体、地域、対象の比較

インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)

- インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP) は、ESGやインパクトの測定・管理・報告に係る重要事項を議論し、世界的な統一基準の形成を目指す。
- IMPには、後述のGIIN、UNEP FI、IFC等も参加。

インパクトの考え方

- どのような活動にも人と地球環境へのインパクトがあることを前提とし、そのインパクトは5つの側面から把握する必要があるとしている。(右図参照)

インパクトの評価方法

- まず、投資先企業の環境・社会的課題(※)を5側面から把握。
- インパクトは、**A(害の回避) < B(ステークホルダーへの恩恵) < C(課題解決への貢献)**の順に大きくなり、進化したインパクト投資となる。
- その後、各課題のインパクト区分を基に、投資先企業のインパクト区分を特定。

インパクトの5側面

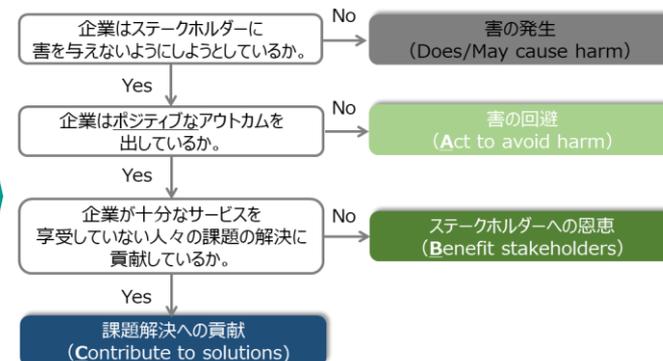
インパクト側面	各インパクト側面において問う事柄
□ 何を (What)	<ul style="list-style-type: none"> どのようなアウトカムが生じるか。 そのアウトカムはポジティブかネガティブか。 そのアウトカムは人あるいは地球にとって重要か。
○ 誰が (Who)	<ul style="list-style-type: none"> 誰がそのアウトカムを享受するか。 その人達はその恩恵を受けてこなかったか。
⋮ どの程度 (How Much)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムはどのくらい生じるか。(アウトカムを享受する人数、変化の度合い、アウトカムの持続期間など)
+ 企業の貢献度合い (Contribution)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムに対する企業の貢献は何か。どんな変化が生じるか。
△ リスク (Risk)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトが予想通り生じなかった場合、どのようなリスクが人や地球にあるか。

出所) IMPホームページ、O. Prentice & L. Emme (2019) . IRIS+ and the Five Dimensions of Impact, p.12を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

(※) CO2排出削減、ヘルスケアサービスへのアクセス等。
 <環境・社会的課題のインパクト評価>

インパクトの側面	各インパクト側面の評価結果				
□ 何を	不明	重要でネガティブなアウトカム	重要でネガティブなアウトカム	重要でポジティブなアウトカム	具体的かつ重要でポジティブなアウトカム
○ 誰が	不明	様々	十分なサービスを享受していない人々	様々	十分なサービスを享受している人々
⋮ どの程度・深さ・規模・期間	不明	様々	高度のポジティブな変化	様々	高度のポジティブな変化
	不明	様々	様々	様々	多くの人々に
	不明	様々	様々	様々	長期間
+ 企業の貢献度合い	不明	様々	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまで以上
△ リスク	不明	様々	様々	様々	様々
インパクト区分	害の可能性あり (May cause harm)	有害である (Does cause harm)	害の回避 (Act to avoid harm)	ステークホルダーへの恩恵 (Benefit stakeholders)	課題解決への貢献 (Contribute to solutions)

<投資先企業のインパクト評価>



出所) IMP (2018) . A Guide to Classifying the Impact of an Investment, p.7を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)

- グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN) は、ネットワーキングや情報交換、ガイドラインや調査報告書の発行、インパクト測定・管理ツールの提供等を通じてインパクト投資の普及促進を目指す。

インパクトの考え方

- インパクト投資とは、「**経済的なリターンをもたらすとともに、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である**」と定義。
- その上で、インパクト投資について、4つの主な特徴を提示している。(右図参照)

インパクトの評価方法

- インパクトの測定・管理を行うためのオンラインツール「IRIS+」を開発・運営。
- 「IRIS+」では、①**プロジェクトのカテゴリー/セクター**(エネルギー、農業等)、②**そのカテゴリーに紐づく戦略的目標**(エネルギーへのアクセス、エネルギー効率性等)を選択すると、**指標が自動生成される**。
- この指標は、IMPの5側面(WHAT, WHO, HOW MUCH, CONTRIBUTION, RISK)それぞれについて列挙される。
- 各指標は計算方法まで示され、比較可能性が担保されている。

インパクト投資の特徴

インパクト投資の特徴	詳細説明
意図	投資を通じて社会的及び環境的なインパクトを生み出すという投資家の意図がインパクト投資の最も重要な要素である。
金銭的なリターンを期待する投資であること	金銭的なリターンを生み出すことを期待しており、少なくとも元本の回収を期待している。
金銭的なリターンや資産の区分の幅	市場平均リターン以下からリスク調整後の市場平均リターンまでの幅の金銭的なリターンを生み出す。
インパクト測定	社会的及び環境的な成果や進捗を測定し報告することを表明している。

出所) GIINホームページを基にCSRデザイン環境投資顧問作成

(例) 戦略的目標「小規模エネルギー源からの有害物排出の削減」に関する指標

“WHAT”の指標	計算方法
販売製品によるGHG排出の削減	①販売製品の温室効果ガス削減目標の設定 ②総販売量の特定 ③既存製品のGHG排出量の計算 ④交換された製品のGHG排出量の計算 ⑤GHG排出削減量の計算
販売製品によるGHG排出削減のステークホルダーにとっての重要性	影響を受ける人々の観点から、販売製品によるGHG排出削減の重要性の説明

出所) IRIS+からの出力内容を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)

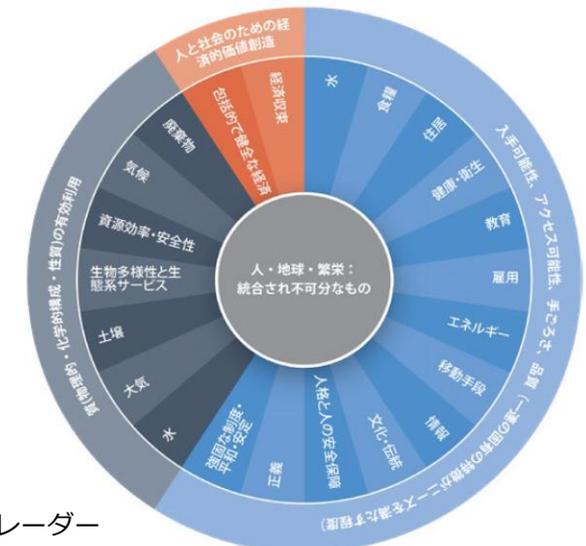
- UNEP FIのポジティブ・インパクト・イニシアティブは、金融機関が意思決定において環境・社会・経済の3側面を検討し、総合的にどのような貢献ができるか (=インパクトを創出できるか) に焦点を当てて考案されたビジネスモデルの推進を目指す。

インパクトの考え方

ポジティブ・インパクト・マニフェスト (2015年)	SDGsの達成に向けて民間資金を調達するための新たな金融パラダイムとして「 ポジティブ・インパクト 」の概念を提示。 市場水準のリターンを確保するとともに「潜在的にネガティブな影響がきちんと特定・軽減されると、経済、環境、社会のうちの1つ以上の側面にプラスの影響を与える」とし、銀行をはじめとする金融機関に対し、SDGsの達成に向けて行動・価値観の変革を促す。
ポジティブ・インパクト金融原則 (2017年)	金融において「 ポジティブ・インパクト 」を創出するための 共通原則 。 持続可能な開発の3側面 (環境・社会・経済) について、ポジティブ、ネガティブの両面からインパクト評価を行う包括的な内容 になっている。
責任銀行原則 (2019年)	原則2「 インパクトと目標設定 」で実質的に「 ポジティブ・インパクト 」について言及している。

インパクトの評価方法

- 2018年にUNEP FIが開発した「インパクト・レーダー」で定義された22のインパクト・カテゴリーについて、ポジティブ及びネガティブなインパクトを検討し、案件が重大なインパクトを及ぼす領域を特定。
- 事前のインパクト特定、事後のインパクト測定 (モニタリング、報告等) の両方に活用可能。
- ビジネスの意思決定にインパクトの考え方を組み込むためのガイドやツールを開発・提供している。
 - 資金用途を限定しないモデルフレームワーク (2018年)
 - 資金用途を限定するモデルフレームワーク (2018年)
 - ポジティブ・インパクト不動産投資フレームワーク (2018年)
 - Impact Identification & Assessment for Bank Portfolios (2020年)
 - Impact Analysis for Corporate Finance & Investments (2020年)



インパクト・レーダー

国際金融公社 (IFC)

- 国際金融公社 (IFC) は、投資のライフサイクル全体を通してインパクトの考え方を意図的に組み込むことを目指す。

インパクトの考え方

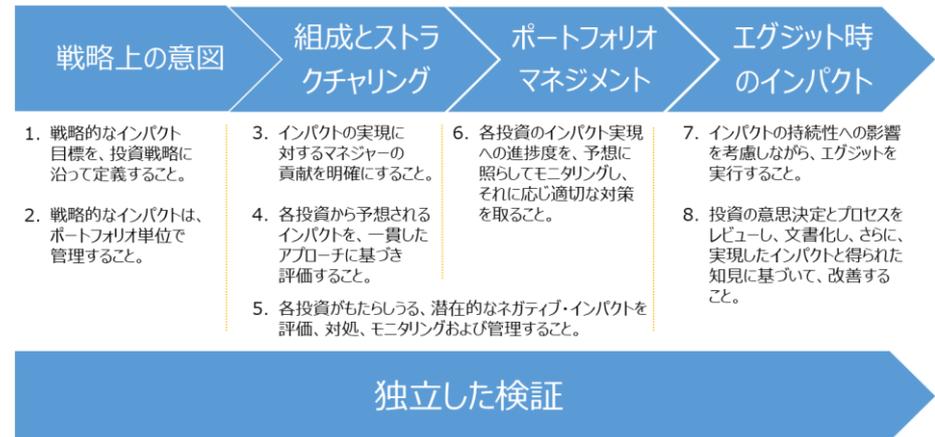
- インパクト投資の定義は、GIINの定義を引用。「**経済的なリターンをもたらすと同時に、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である**」と定義。**必ずしも財務的なリターンを犠牲にするものではない。**
- **インパクト投資の運用原則 (2019年4月)**
 - 経済的なリターンを追求すると同時に、測定可能な社会・環境へのプラスのインパクト実現に貢献する意図を持った企業・組織に対する投資を行う際の運用管理の要件を提示。IMPやGIIN等、既存のインパクト投資の取組に整合。
 - 投資プロセスを5つの主要素に分け、9つの原則を策定。(下図参照)

インパクトの評価方法

- 使用するインパクト評価の手法は、各金融機関に委ねられている。(IRIS+、GRI、SASB等)
- 署名機関は、年次開示を各機関のウェブサイトで公表しなければならない。

<年次開示に含める事柄>

- ✓ 署名機関である旨の宣言
- ✓ 運用原則に準拠する資産の一覧と総額
- ✓ 各原則の投資プロセスへの組み込み方法の説明
- ✓ 運用原則への準拠の程度
- ✓ インパクト管理システムが運用原則に準拠していることに関する独立の検証報告書



独立した検証

- 9. 本運用原則との整合状況を開示するとともに、整合状況について、独立した検証を定期的実施すること。

インパクト投資の運用原則における投資プロセスの要素と原則

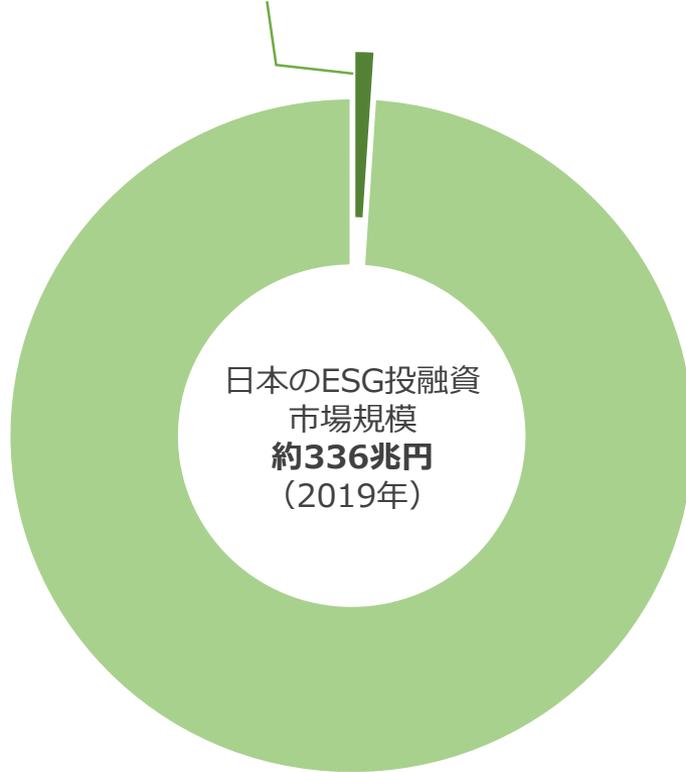
出所) 国際金融公社 (2019) 「インパクト投資の運用原則 参考和訳」 p.3

インパクトファイナンスの市場規模と具体事例

日本におけるインパクトファイナンスの市場規模

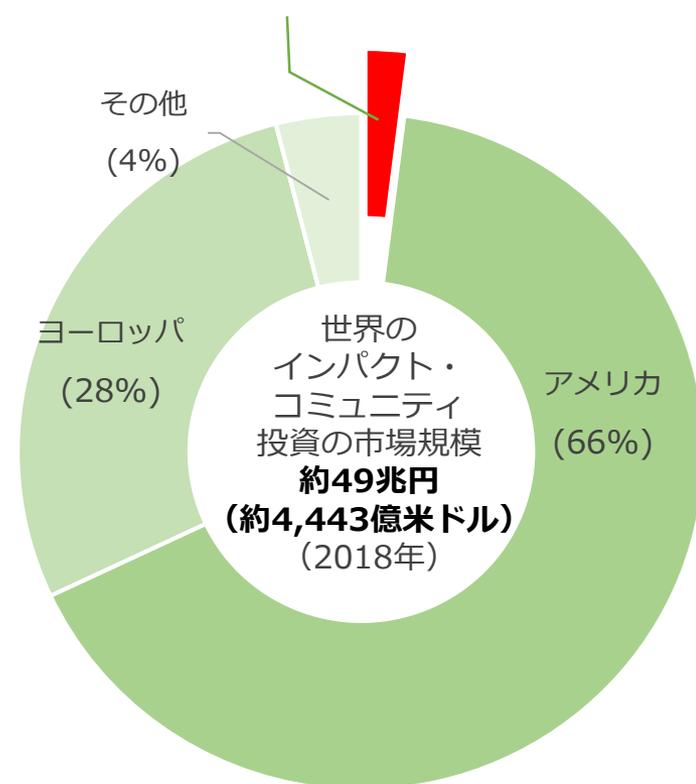
- この2019年時点での日本におけるESG投融資の市場規模は約336兆円に上るが、そのうち**インパクト・コミュニティ投資の残高はテーマ型投資も含んだ約3.5兆円の内数にとどまる。**
- また、世界のインパクト・コミュニティ投資のうち日本の割合は僅か2%程度と言われる。

インパクト・コミュニティ投資残高と
テーマ型投資残高の合計: **3.5兆円 (約1.0%)**



日本におけるESG投融資とインパクト・コミュニティ投資の市場規模※1

世界のインパクト・コミュニティ投資のうち、
日本の割合: **2%**



世界におけるインパクト・コミュニティ投資の市場規模と日本の割合※2

※1: 日本サステナブル投資フォーラム (JSIF) 「サステナブル投資残高調査2019」による。
ただし、この残高は「投資」に限定されており、地域金融機関による意欲的な取組や、グリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローンなど、ローンでのインパクトファイナンスを捕捉しているわけではない。
また、グリーンボンド及びサステナビリティボンドの2019年の発行総額は1兆円を超えている。

※2: Global Sustainable Investment Alliance
「2018 Global Sustainable investment Review」による。

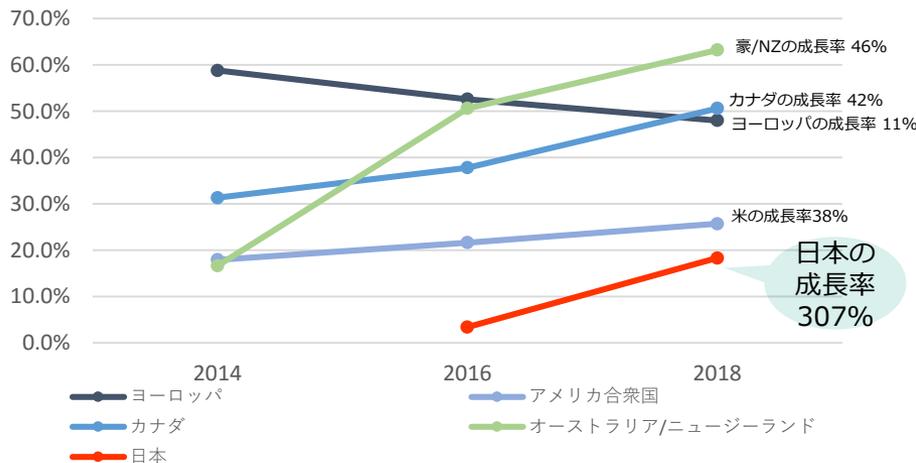
ESG投資とインパクトファイナンスの成長率

- 日本のESG投資の近年の成長率は世界一であり、大規模なESG金融の資金を巻き込むことで、インパクトファイナンスが発展していく潜在性。
- 日本のインパクト・コミュニティ投資とサステナビリティ・テーマ型投資の残高は、2019年は前年比で1.7倍に成長。

日本の総運用資産におけるESG投資割合と成長率

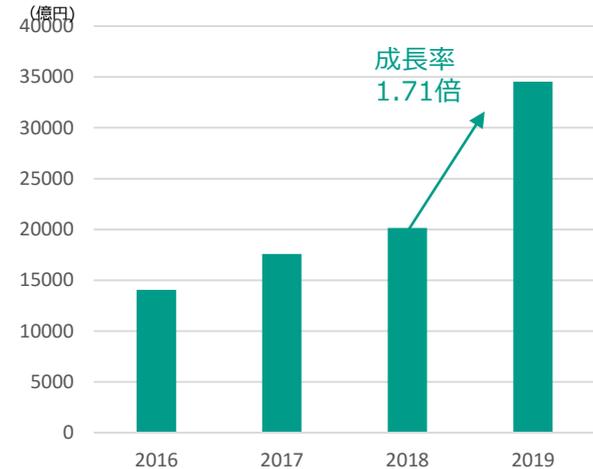
- ◆ 日本のESG投資の伸び率は、2016年から2018年にかけて約3倍と世界一
- ◆ 日本の総運用資産におけるESG投資の割合は、18.3%と増加
- ◆ 2019年は、2018年と比較し1.45倍と引き続き高い成長率を示している

運用資産に占めるサステナブル投資の割合



日本のインパクトファイナンスの成長率

- ◆ 日本のインパクト・コミュニティ投資とサステナビリティ・テーマ型投資の合計額は、2018年から2019年にかけて1.71倍に成長



■ インパクト・コミュニティ投資+サステナビリティテーマ型投資



民間の取組事例① (1/2)

- **アクサIM**は、日本に本拠地を置き、グローバルにわたる多様な資産に対してアクティブ運用を行う資産運用会社（運用資産総額8,010億ユーロ）。
- クリーンテック戦略のもと、SDGsと合致する4つの主要サブ・テーマを中心に上場株式投資を実施。



持続可能な輸送

(ポートフォリオの約25%*)

- ・ **電気車両 (EV)**：社会的／政治的圧力がEVの採用において強力な支援材料に
- ・ **バッテリー**：バッテリー技術の著しい進歩と充電コストの大幅な低下が、EVを一般大衆市場での取り扱いを可能に
- ・ **技術基盤**：半導体・コネクタ・排出量削減システムは、すべての運輸サービス／ソリューションにおいて、エネルギーの効率的利用を実現する鍵に




TE Connectivity – Johnson Matthey – Infineon



スマート・エネルギー

(ポートフォリオの約25%*)

- ・ **再生可能エネルギー**：再生可能エネルギーの生産コストの低下によって、企業や国は風力や太陽光、水力発電を電源とした経済活動が可能に
- ・ **グリーン住宅／ビル**：先進の電力メーターや充電設備を利用することで、デジタル化されたネットワークが電力供給を管理、日々変化する企業活動や公共サービス、一般家庭の電力需要に対応
- ・ **効率的な工場**：冷暖房やデータ・ストレージ、接続デバイス、製造プロセス、照明などのエネルギー消費を削減





Kingspan – NextEra Energy – Schneider Electric



責任ある栄養摂取

(ポートフォリオの約25%*)

- ・ **食品&農業**：精密農法、動物肉への過剰な需要の抑制、バイオサイエンス分野でのイノベーション、オーガニック・フード生産を通じて、資源を保全しつつ、かつ、より健康的な食生活を増大中の世界人口に提供
- ・ **水**：飲料水の質を改善する技術や、水利用量の削減を促す技術、水の再利用を可能にする技術を持つ企業にとって、清潔な水資源の欠乏に対する認識の高まりは、新たな成長機会に





Symrise – Itron – Deere & Co






リサイクルと廃棄物削減

(ポートフォリオの約25%*)

環境に与えるダメージを軽減するビジネス - 廃棄物の削減、リサイクルの促進、汚染のモニタリングと解消による - は世界経済にとって大きな利益をもたらす




Halma – China Everbright – Ball Corp

出所：アクサ IM 2019年11月末現在。上記は例示目的に留まります。*戦略全体を基にした推定であり、例示目的に留まります。上記は、将来のポートフォリオの構成や、運用実績を示唆・保証するものではなく、戦略が成功裏に目標を達成することを保証するものではありません。表示されている数字は実際のポートフォリオには関係がありません。実際のポートフォリオは、取引コストや市場インパクト、金利動向などを含むポートフォリオ運用や取引リスクを伴うことから、結果として、上記の情報と共通しない可能性があります。上記は例示目的にすぎず、戦略に採用される典型的な銘柄やセクター、地域を表すものではなく、特定の銘柄の売買を推奨または教唆するものではありません。アクサIMは本資料に記載されている、いかなる運用プロセスや管理手法について、自己の判断によって修正する権利を有します。



民間の取組事例① (2/2)

投資先企業

CHR HANSEN

クリスチャン・ハンセン・ホールディング

- デンマーク企業、時価総額100億米ドル
- 食品加工用の微生物と酵素の培養分野における世界的なバイオサイエンス企業。乳製品の流通段階での賞味期限を自然由来の技術で延長、作物の収量増加にも貢献
- 食品廃棄物の削減、貯蔵飼料の保存や抗生物質への耐性向上を通じた家畜の健康維持（収量の増加）に関するソリューションも提供
- フード・サプライチェーンの持続可能性を改善する取組みが、同社事業の軸

インパクトの概要

課題：

世界では全食品の1/3が廃棄されている一方、2050年に98億人に達する世界人口を養うためには食料人口を50%増やす必要がある。抗生物質に対する菌類の増加が、2050年までに死亡原因の第1位になるとの研究結果も。世界の新品に占める2/3以上が天然の顔料を使用、この中には、天然由来の色素を使った食品も含まれる。世界の穀物の10%以上が線形動物（寄生虫）により失われている。

インパクト指標：

- 食料バリューチェーンに跨る廃棄物の削減により持続可能性に貢献
- 売上高の82%がSDGsに貢献（PwCによる認証）
- 天然食物の品質維持・改善ソリューションを通じて持続可能な農業に貢献。収量高めると共に、化学農薬に替わる手段を提供
- 研究開発投資は、競合他社比で高水準に（総売上高の6.8%）
- 生産段階で消費される水資源や、排出される温室効果ガスなどの分野で環境上のインパクトを弱めるべく目標を規定、リサイクルされるバイオマスも増加中
- 管理職の39%が女性
- いくつかのインパクト指標で最近悪化がみられる（排水量が増加中）

インパクト分析

主なSDG:



二次的 SDG:



その他SDGs:



Company Ratings: Scale: 1-5

Solution Materiality	Products and Services	2
	Operations	1
Additionality	Products and Services	2
	Operations	2
Transparency & Commitment		1
Negative Externalities		1

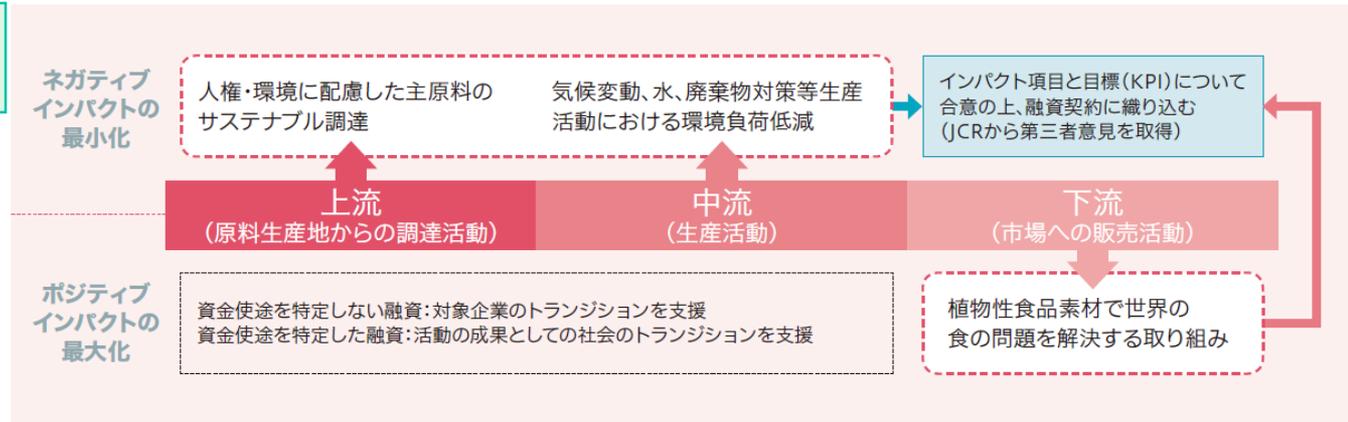
KPI

	2019	目標
ヨーグルトの廃棄量削減	58万トン	2022年までに120万トン
リサイクルされるバイオマス	103,527トン	—
農薬の代替品で耕作される農地	1040万ヘクタール	2025年までに2500万ヘクタール

民間の取組事例②

三井住友信託銀行は、UNEP FIの「ポジティブ・インパクト金融原則」に基づき、資金用途を特定しないポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施。融資先企業に対してサプライチェーンを俯瞰したポジティブ・ネガティブ両面のインパクト特定、それぞれのインパクトの最大化と最小化に関するKPIを設定し、それらのコミットメントを行うことをエンゲージメントしている。

不二製油グループ本社への ポジティブインパクトファイナンス



(出典) 三井住友トラスト・ホールディングス ESGレポート 2019/2020

◆ **三井住友信託銀行**は、2019年3月、不二製油グループ本社株式会社との間で、世界初となるポジティブ・インパクト・ファイナンス（資金用途を特定しない事業会社向け融資タイプ）の融資契約を締結。

◆ 同社の**サプライチェーンの上流、中流、下流のそれぞれにおいて、ポジティブとネガティブ両面のインパクトを特定し、それぞれ最大化と最小化についての目標を設定し、それらのコミットメントを融資契約に織り込んで**いる。

<スキーム概要>



SDGs達成にインパクトを与える活動として、定性的、定量的に評価を受けたテーマ

テーマ	内容	SDGs
サステナブル調達	人権・環境に配慮した主原料調達 (パーム油等)	8, 12, 13, 14, 15
生産活動における環境負荷低減	「不二製油グループ環境ビジョン」における気候変動、水、廃棄物対策	7, 11, 13, 14, 15
食の創造によるソリューション提供と食の安全・安心・品質	Plant-Based Food Solutions (植物性食品素材で世界の社会課題を解決する取り組み)	2, 3, 9, 10, 11, 12, 13

○本件スキームにおいて準拠する原則



(出典) 不二製油グループHP

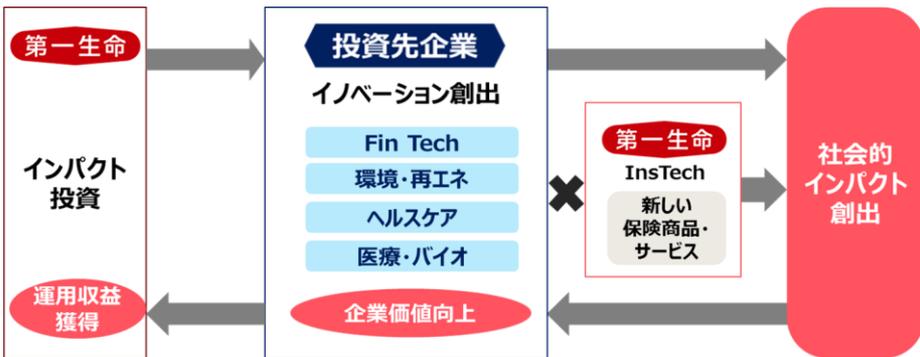
https://www.fujiioilholdings.com/news/2019/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/0328_newsrelease_J.pdf

民間の取組事例③

第一生命は、保険の引受と資産の運用を通じ顧客のQOL（生活の質）向上に貢献するとの理念に基づき、ESG投資の基本方針に基づきESG投資を実施。そのうち、**ESGテーマ型投資の一部としてインパクト投資を位置づけ**、これまで16件、68億円のインパクト投資を実施。

第一生命におけるインパクト投資の狙い

気候変動関連のインパクト投資事例



※定期的にモニタリング

(案件選定の視点)

① 経営者が社会課題解決に向けた**明確なビジョン**を有していること

② 社会的インパクトの**実現可能性** × **事業の革新性** × **市場シェア**

(インパクト評価の手法)

投資前に「インパクト評価のKPI」設定を**経営者と合意**し、定期的なモニタリングを実施

事業概要	投資金額	社会的インパクトの測定指標 (KPI)
Spiber 化石燃料を原料とした素材に代わる新世代バイオ素材の開発を行うベンチャー	10億円 2017/9 投資	13 気候変動に具体的な対策を 化石燃料を原料とする素材の代替によるCO2排出削減効果
Challenergy 台風でも発電できる風力発電機の開発を行うベンチャー	2億円 2019/3 投資	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに ディーゼル発電の代替等によるCO2排出削減効果
株式会社 環境エネルギー投資 環境・エネルギー分野に特化したベンチャーファンド	10億円 2019/3 投資	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 投資先企業の再エネ発電量等によるCO2排出削減効果

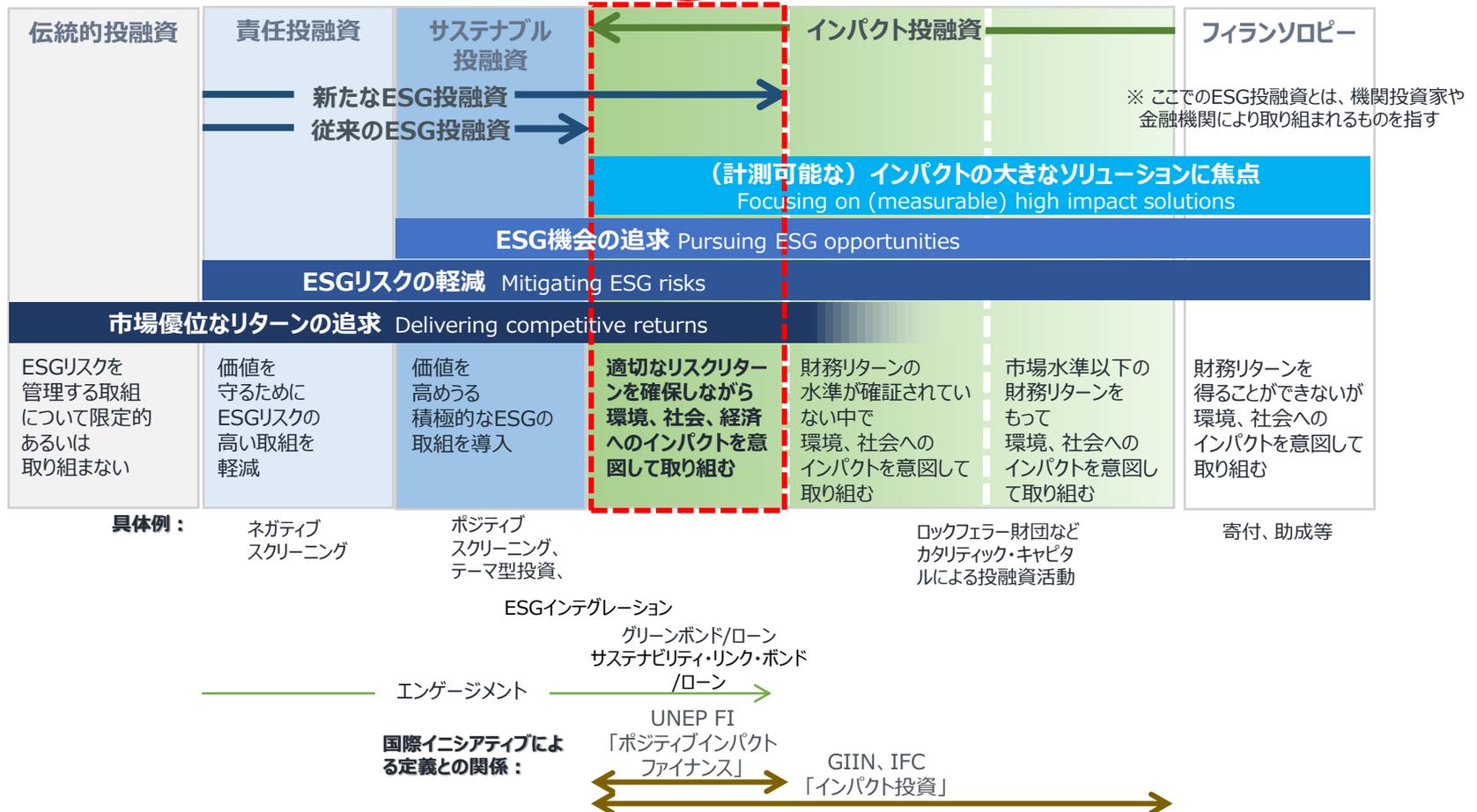
(出典) 第1回ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース 第一生命竹内委員発表資料

インパクトファイナンスの基本的考え方について

環境・社会・経済へのインパクトを追求するESG金融の最先端

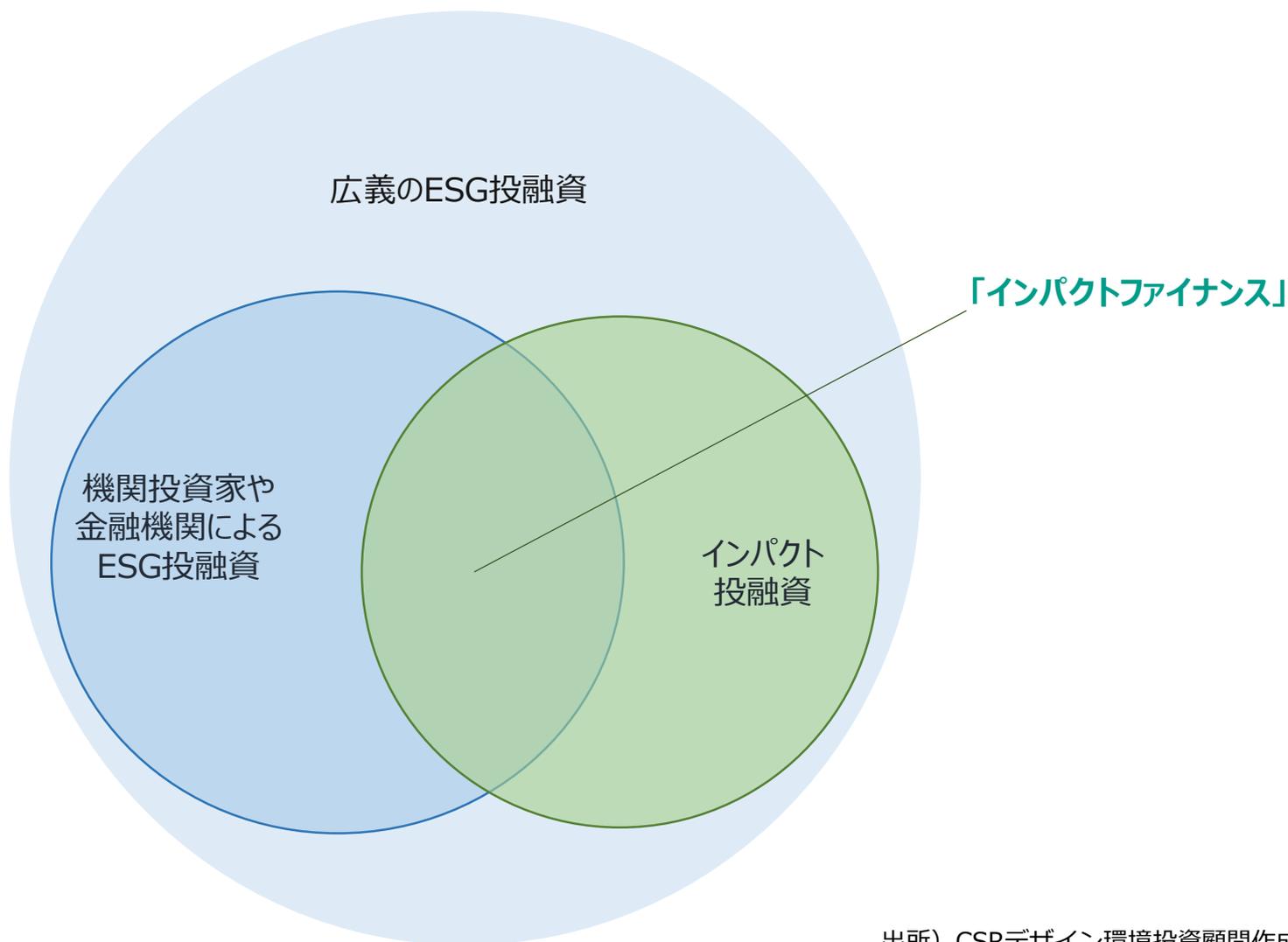
- 「インパクトファイナンス」は、ESG要素を考慮する従来のESG投融資と比較すると、**明確にインパクトを意図する点、インパクトの測定を行う点**が特色であり、ESG金融の発展形といえる。
- インパクトファイナンスを普及していくことで、大規模なESG金融の資金がインパクトファイナンスに発展していく**潜在性**に着目。

インパクトファイナンス



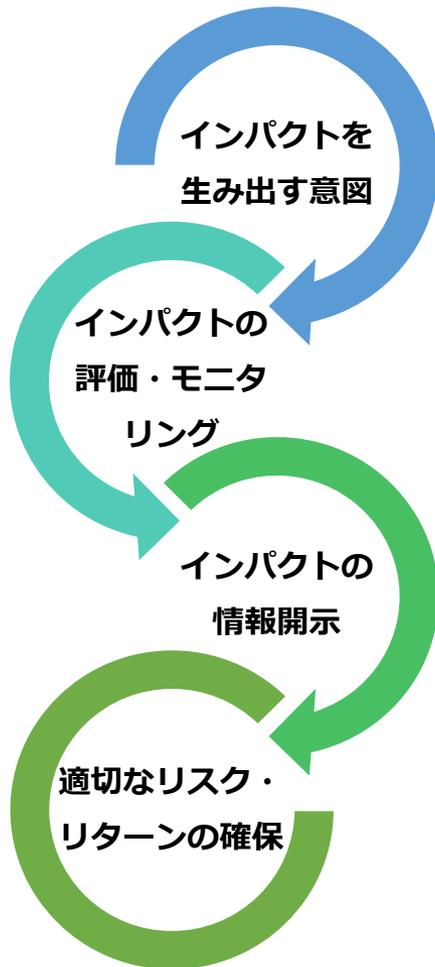
「ESG投融資」と「インパクト投融資」の相対的關係

- 「インパクトファイナンス」は機関投資家や金融機関によるESG投融資の発展形として、従来の「インパクト投融資」と重なる部分をいう。



インパクトファイナンスとは

- この基本的考え方における「インパクトファイナンス」とは、**次の4つの要素を全て満たすもの**をいう。
- なお、この定義は、UNEP FIのポジティブインパクト金融原則、GIINのインパクト投資の定義、IMPの考え方等を基礎としてまとめたものである。



投融資時に、環境・社会・経済のいずれの側面においても

要素① 重大なネガティブインパクトを適切に緩和・管理することを前提に、少なくとも1つの側面において、**ポジティブなインパクトを生み出す意図**を持つもの

要素② インパクトの評価・モニタリングを行うもの

要素③ インパクトの評価結果・モニタリング結果の情報開示を行うもの

要素④ 中長期的視点に基づき、個々の金融機関・投資家にとって適切なリスク・リターンを確保しようとするもの

個別の投融資におけるインパクトファイナンスの基本的フロー

- インパクトファイナンスには様々な投融資手法、アセットクラス、インパクト領域があり得るが、個別の投融資において共通する基本的な流れをまとめた。

1 インパクトの特定

- ポジティブ/ネガティブの両面で、特に重大と考えられるインパクト（以下「コア・インパクト」という。）を特定する。
- ポジティブインパクトについては、特定したインパクトを生み出す意図を持って目標を設定し、ネガティブインパクトについては、発生した場合に重大な影響を及ぼすインパクトを特定する。

2 インパクトの事前評価

- 特定したコア・インパクトについて、可能な限り、測定可能なKPIと数値目標を設定し、定量的に評価する。

4 インパクトのモニタリング

- 特定したコア・インパクトについてモニタリングして、定期的にKPIに基づき測定し、定量的目標を設定している場合にはその達成度も評価する。

5 インパクトの情報開示

- 投融資時には、特定したコア・インパクト、KPIや事前評価の結果等について、投融資後にはモニタリングの結果について情報開示を行う。



3 インパクトの事前評価の確認 (必要に応じて実施)

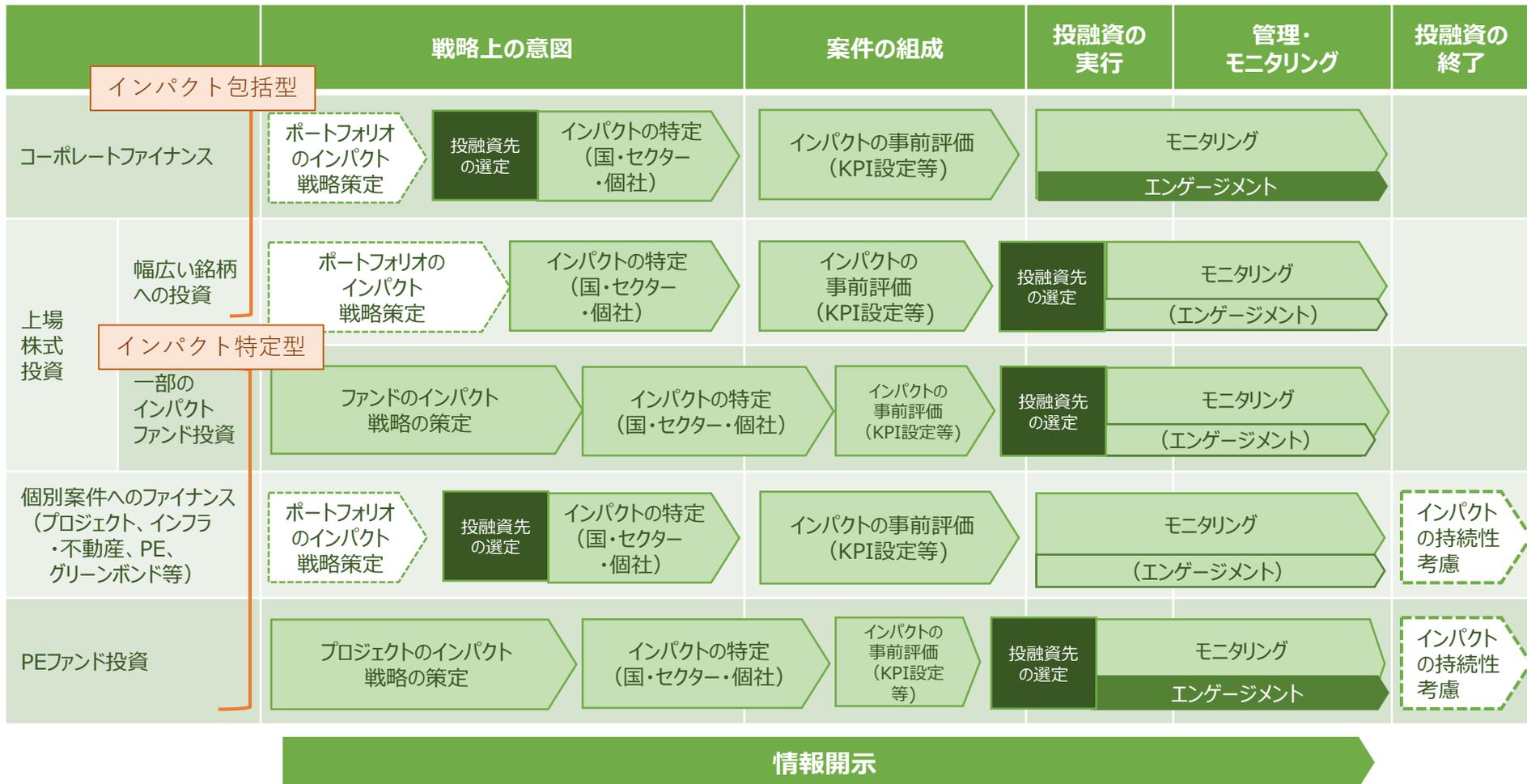
- ポジティブインパクトの有無やネガティブインパクトの緩和・管理状況等により、i) ポジティブインパクト、ii) ポジティブインパクトトランジション、iii) ポジティブインパクトに該当しない、に分類し、現状の把握・確認を行うことで、投融資先がより望ましい方向に移行していく動機付けとして活用することができる。

6 投融資終了時におけるインパクトの持続性の考慮 (必要に応じて実施)

- 投融資を終了する際、その後事業が継続する場合等、新たなオーナーシップの下でのインパクトの持続性に及ぼす影響を必要に応じて考慮することが期待される。

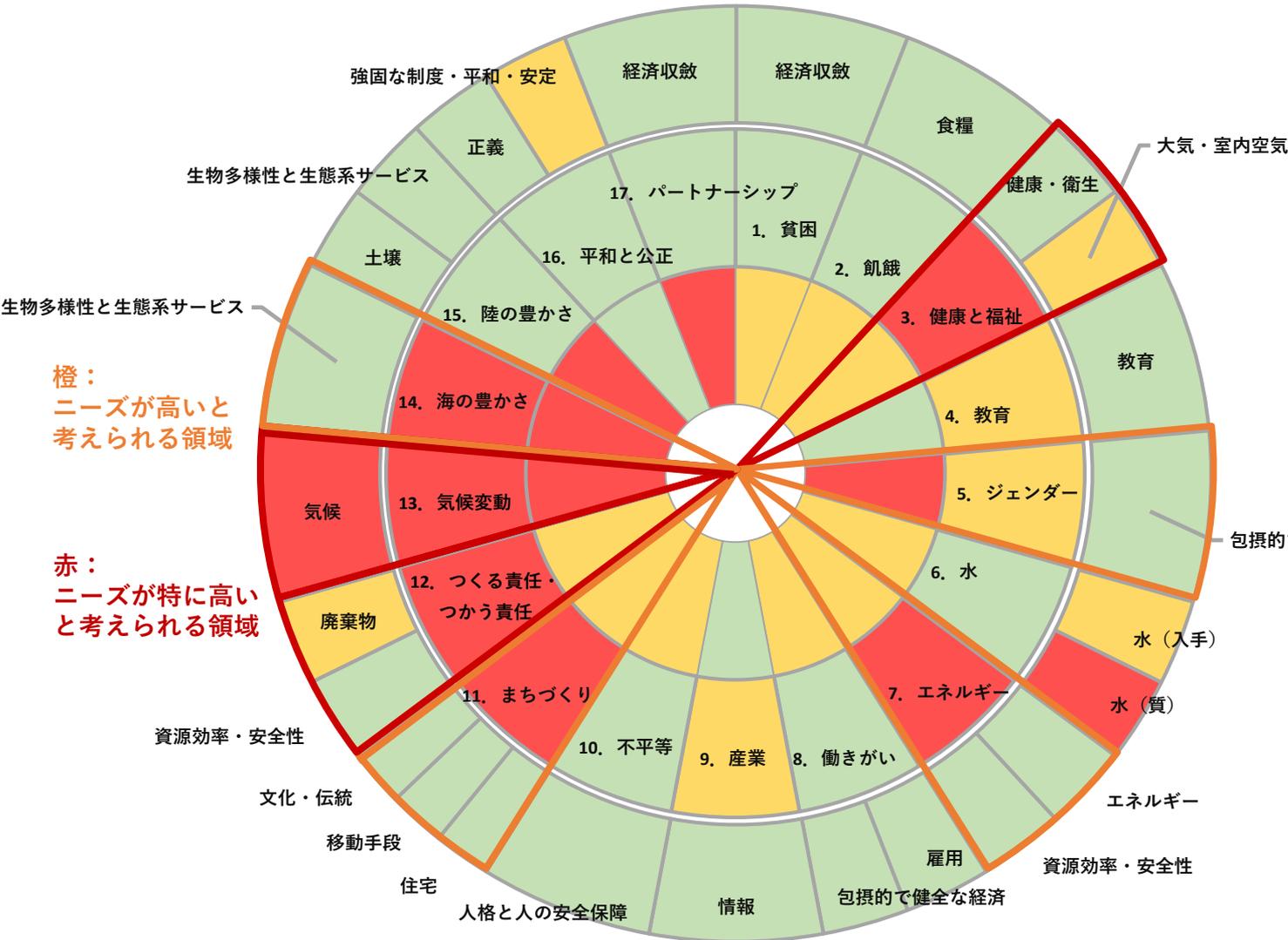
投融資スタイル別のインパクト評価の流れ（イメージ）

- インパクトの特定において、コーポレートベースで多様なインパクトを包括的に把握するもの、プロジェクトやファンドベースで特定のインパクトを狙いにいくもの、という違いがある。
- 投融資のスタイルの種類によって、インパクトファイナンスのプロセスの順序にも差異が生じる。
- 投融資案件の性質に応じて、金融機関/投資家はふさわしい手法を活用する。



日本国内の事業におけるインパクトニーズマップ

- 日本国内の事業におけるインパクトニーズを特定する際の参考として、SDGsインデックス&ダッシュボード、日本政府による「SDGs実施指針」、UNEP FIのインパクト評価ツールによる日本のカントリーニーズを関連づけて整理したもの。



橙：
ニーズが高いと
考えられる領域

赤：
ニーズが特に高い
と考えられる領域

社会のサステナビリティを支えるインパクトファイナンスの意義

- 投融資や企業の事業活動におけるポジティブなインパクトへの意図やコミットメントの可視化により、
 - ▶ 投融資先企業や金融機関/投資家自身の価値・競争力の維持・向上につながる
 - ▶ それらが両輪となって拡大することで、アフターコロナの社会づくりの軸となる社会全体のサステナビリティ向上を支えるものとなる。

アフターコロナの社会づくりの軸となる 社会全体のサステナビリティ向上



- ▶ インパクト発現への貢献による、**社会的支持の獲得・競争力向上**
- ▶ インパクトの意図による、自らのESG投融資の理念の実現
- ▶ **インパクトを考慮した中長期的志向による、適切なリスク・リターン**の追求
- ▶ ネガティブインパクト低減・ポジティブインパクト増大による、資本市場の持続的・安定的成長、経営基盤の維持・強化

- ▶ 環境・社会・経済課題へのインパクトへのコミットメントが**明確化し、ステークホルダーの評価・信頼関係強化**
- ▶ **サステナビリティ経営の強化・企業価値向上**
- ▶ **インパクトベースの新たなビジネス資金調達の可能性**